043　めまい

女性　四十二歳　主婦

主訴　頭がボーっとしている。めまいがひどい。

現症　某大学病院で、良性発作性眩暈症（約4ヶ月前）と診断される。3ヶ月前にひどいめまいがあって、大学病院で治療を受けるがあまり効果がなく、6日前に実家がある宮崎県の延岡に帰省。そして来院する。見た瞬間、目がトローっとして、ほとんど話さない。鬱病状態であるのがわかった。

所見　脉状「やや緊」。腹診「左天枢(+)」「左中注～大巨(+)」。局所「陰陵泉(+)」。火穴「然谷(+)」。表情は無感動顔貌。

処置　扁桃、瘀血、肝門脈鬱血、骨盤鬱血各処置。

経過　2回目（2日目）後頭が少し軽い感じがする。めまいはあり、寝返りや頭を上げたり、振り向いたりするとひどい。腹全て圧痛あり。肝実処置をはずし、自律神経調整処置を加える。
3回目（4日目）前頭部に痛みあり。めまいは変わらずある。腹部の圧痛はなし。全体的に薄紙を剥ぐような感じ。目に力が入ってきている。脉が当初より緩やかになり、腹部の圧痛が減る。眠りも良くなっている。ようやく体が良い方向に向かいだした。
4回目（5日目）右の方が良く回っている。良性発作性頭位めまいは、内耳の三半規管に耳石がたまるといわれている。たぶん、右側の方が多いのだろう。頭痛は良くなっている。腹部は「左天枢（＋）」、「左中注（＋）」反応あり。
6回目（9日目）今日は右坐骨神経痛を訴える。腹（－）、然谷（－）、脉「やや緊」あり。扁桃、自律神経調整、坐骨各処置。
7回目（11日目）回転性のめまいがまだある。「やや緊数」。扁桃、自律神経調整、瘀血各処置。
　一方では彼女の治療は、こうなった原因を詳しく話しながら行った。家を新築するので、参考になる本や専門的な設計に関する本を数冊買い、毎日根をつめ、設計図を書き上げるまで頑張った。その間、ご主人は仕事が忙しいからあまりタッチせず、ゆっくり話し合うこともなかったという。彼女は孤独で不満を溜めながら、詳細な設計図を書き上げた時、マグマのように溜まっていたストレスが、体の限界点を超えて、体の悲痛な叫びになって一気に噴き出した。「それが良性発作性頭位めまいになり、鬱になったんですよ」と説明する。彼女は安心したのか、合点がいったのか、目に涙を浮かばせていた。
9回目（19日目）岩盤浴に行って、低温やけどをしてしまったという。余裕が出てきた。めまいは、前回治療後起きていない。つまり右を向いても大丈夫。同前処置。
現在も（44日目時点）、JRやクルマで3時間かけて来院している。その表情は明るく、目に力があり、良く喋る。後は頭の縦のブレを残すだけとなった。

考察　　彼女の治療は、一連の処置法とカウンセリングを施しながら、もう一つ工夫をした。心情的な鬱屈、後頭部の鬱血もひどかったので、「気の鬱積に対する手技」つまり、浅刺瀉や雀啄瀉をしていった。それと上腕二頭筋停止部（曲池周辺）の結合組織の硬化等を柔らげる「気の渋滞に対する手技」も同時に行った。つまり気血の流れを促し

ていったのである。これら三段構えの治療で彼女は鬱病やめまいから開放されていったのではないかと思う。